

2020年3月期 第1四半期決算説明会 質疑応答要旨

【業績 実績・予想】

Q：1Q実績減益の要因は？

A：1Q実績については、前年比では減益だが、計画比では順調に進捗している。こちらは計画上織り込まれていた経費にはなるが、生産性向上と働き方改革のためのIT投資等一時的な経費の増加が1Q実績には含まれているが、社員のモチベーションと生産性向上により今後の利益貢献につながるものと考えている。

Q：通期の営業利益予想に対する実績の進捗状況は？達成への確度は？

A：1Q実績では、計画比で100億円上回っている。また年間で3,800億円の予想であることを考えると、前年比で下期は大幅増益となる想定だが、IT投資による管間部門の生産性向上、工場のF-IoT化、仕入先と一体となったVA・VEにより達成できる見込み。環境の悪化については、アクションでしっかりカバーしていく方針。

Q：1Q実績が、計画比100億円上回った要因は？

A：昨年度から、電子部品の需給ひっ迫の影響による値上げの影響が営業利益を押し下げていたが、この値上げの抑制、および顧客向け販売単価への値上げ分の上乗せをしっかりとできているため。また経費も前年比では大幅増加も、計画比ではマイナスとなっている。現場の生産性向上等の要因もある。

Q：グローバル車両生産は、短期的には落ち込んでいるが、デンソーの台数見通しは？

A：現在の売上見直しには反映させていないが、年間の車両生産は前年比△3%の減少を見込んでいる。中国の市場減速の影響が大きいと考えている。一方、デンソーの顧客構成や、新製品投入の影響もあり、当社としては前年比売上+2%の伸びを予定している。

【注力分野への取り組み】

Q：トヨタ自動車の電動化計画の前倒し方針を受けて、デンソーへの影響は？

A：デンソーは3年で1,800億円の電動化関連投資を実施すると発表しているが、この中でトヨタの前倒し計画分を対応することとし、しばらくこの数値に変更はない。デンソーは現在、日・米・中の3極で電動化製品を生産しているが、北米テネシーでの生産強化、中国や日本の安城の電動開発センター開設等に取り組んでいく。リターンについて、電動化関連製品のみを担当するエレクトリフィケーションコンポーネント事業部では全社平均の営業利益率を上回る利益率を達成できており、現時点で投資がかさんでいる他社と比べると、当社は現時点ですでに利益を享受できる局面に来ている。

Q：トヨタ自動車と半導体開発の新会社を設立することについて、デンソーの役割やルネサスとのすみわけは？

A：今までは、デンソーとトヨタで重複業務等があったが、半導体新会社設立により、重複業務をなくし開発費の効率化、インターフェースの標準化、SiCの開発やガリウムの開発、マイコンの性能UP等を狙う。開発品はトヨタだけでなく、トヨタ外のOEMやTier1にも販売していきたいと考えている。ルネサスは実装により近いところを担当しているイメージ。また、ルネサスには自動運転のSoCをやっていくことを期待している。

以上